

田舎暮らしを楽しむ

(13)

佐藤 彰啓



日当りのいい場所を菜園にする

今回から家をどう手当てするかについて触れてみたい。まず、家を建てる場合の留意点から。

都会で家を建てる場合、建物内部の間取りをどうするかが最大の関心事だ。敷地は限られており、庭周りや外構は後で考えればよいということになる。だが、田舎では、最初に考えなければいけないのは間取りではなく、敷地の利用計画である。

購入した土地は都会に比べれば広い。しかも周辺には林や田園風景が広がる。住宅内部だけでなく、そうした環境がすべて生活空間と考えることが、田

家の手当て(1)

舎暮らしを豊かにする。

まず、購入した敷地の中に立つて、四方を眺めてみる。周辺にどんな景観が見えるか。朝日がどこから昇り、夕日はどの方向に沈むか。日当たりはどのように変化するか。立つ位置や時間によっても景色が異なる。

自然の景観を住まいに取り入れる。そのためには、どの位置に建物を建てればいいのかを考える。住まいの中で最も多くの時間を過ごすリビングをどこにするか

まずは敷地全体の利用計画

も大切である。

建物の配置が決まると、次に菜園の位置を決める。田舎では何といても「新鮮な野菜を食卓に」である。一、三人の家族だと三十坪ほどの菜園があれば、年間三十種類以上の野菜が自給できる。野菜の出来不出来は日照が影響する。敷地の中で最も日当たりのいい場所をそれに充てる。建物と菜園の場所を決め、道路からのアプローチ、駐車スペース、ガーデンを楽しむ庭を確保するとよい。

建物は、道路や隣地の境界線から三、四メートルは離して建たい。特に、雪国では冬の間、家の北側に屋根から落ちた雪を処理するスペースが必要になる。ふだん、その場所は日陰になるが、ミョウガやミツバ、ニラ、シイタケなどの作物の栽培に適する。以前、田舎の土地を購入した人が週末に小さなテントを張り、四季を体験してから住宅を建てた例があった。田舎は夏と冬では全く景観が異なる。季節の移ろいを味わいながら自分のプランを立てるのも、田舎暮らしのだいご味である。

(ふるさと情報館代表)